

■ 引越の城

木崎地区に城があり、「引越の城」と名付けられていたと伝わっています。また、この城は明応年間(1492~1501)に、上杉氏の武将 須田備後守宗通の居城であったと伝えられています。宗通が関東管領 上杉顕定に内応したと疑われ、1510(永正7)年に上杉謙信の父長尾為景によって春日山城で討たれた後は、小千谷市塩殿の城主 長尾右兵衛景教の弟、丹後守景英がこの城の城主となったと伝えられています。

1955(昭和30)年頃の引越山と金毘羅堂
今では山は取り崩され、金毘羅堂は新発田川
のほとりに移っています。



「引越の城」がどこにあったのか、わかりません。しかし引越は、現在は切り開かれて平になっていますが、かつては引越山という標高20.5mの砂丘の山がありました。この引越山の前には広大な島見瀉が広がり、これが天然の要害となっていた可能性は高いと考えられています。

また、付近からは、砂鉄の入った中世の甕と推定されるものも見つかっています。農具など鉄製品を作るため、砂鉄を大切に保管していたとも考えられています。

この場所は、阿賀野川の河口から島見瀉をとおって新発田に向かう内水面の交通の要所であり、豊田荘における新発田氏側の拠点として重要だったと考えられています。

■ 城山館

太田に城山という小字名が残っています。ここには、標高約14mの小山「城山」があります。この地名から、砂丘の山の上に「城山館」があったと考えられています。調査が行われていないので詳しいことはわかりませんが、大昔からの姿を残す「城山」は、現代に生きる私たちに歴史のロマンを感じさせてくれます。

■ 名目所にも城があった!?

津島屋は戦国時代、上杉氏の家臣、黒田氏の領地でした。当時、隣接していた名目所には「城ヶ腰」「城ヶ腰土居外」などの地名があることから、中世の城館があったと推定されています。

※ほかにも、松浜と太夫浜に「城ヶ腰」、太郎代に「御城山」という城館の存在を思わせる地名があります。